

東海

キンカン「ハウス管」



収穫する後藤取締役

葉付きタマネギ出番

産地復活へ意欲

三重・伊勢 J.A 勢 研修会や助成も



集荷作業を行う担当者(5日、三重県志摩市で)

【三重・伊勢】J.A 伊勢は5日、葉付きタマネギの出荷を始めた。2023年度から産地化に向けて新たに取り組みを始めた品目で、本年度は800袋(1袋2×4玉入り)の出荷を目指す。

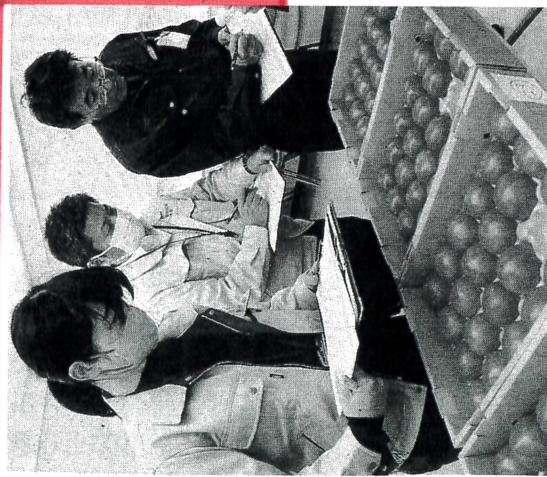
同J.A管内の志摩市では、温暖な気候を生かした極早生タマネギの栽培が盛んだったが、高齢化の進展で生産者の数が減少してしまった。同J.Aは、産地として復活させようと取り組みを始めた。

昨年9月には栽培研修会を開催した。また、産地づくりに意欲と理解のある生産者(極早生タマネギを専業として取り組む生産者)らを対象に、種子代の全額、苗代の70%を補助する。品種は、超極早生品種の「浜笑」や極早生品種の「貴錦」。生のままスライスして食べても甘味が強く、辛味の少ないのが特徴だ。

この日は157袋が出荷された。担当者が玉のそろいを確認しな

から集荷作業を行い、タマネギを県内市場に出荷した。担当者は「志摩地区は温暖・少雨の気候を生かし、かつては国の指定産地だったこともある。ベテランや若手の生産者と協力しながら、産地の復活に取り組んでいきたい」と話す。

2月中は葉付きタマネギ、3月以降はネッ トタマネギとして出荷を続けていく。



トマト品評会 笠原さん最優秀

静岡・J.A
遠州夢咲

【静岡・遠州夢咲】J.A遠州夢咲トマト委員会は1月下旬、菊川市の夢咲青果物流通センターで、2023年度夢咲トマト品評会を開いた。最優秀となる金賞には、掛川市の笠原弘孝さんが選ばれた。

機械選別によってト

マト一つ一つの品質が重視される中、出荷品質の向上と栽培技術の研さんを図る目的で開催した。

今回の品評会には24点が出品され、県中遠農林事務所生産振興課産地育成班の戸田佳香主査を審査長に、市場やJ.A静岡経済連の担当者ら5人が外観や食味などを審査した。

戸田審査長は「厳しい生産環境の中でも全体的に玉のそろいが良く、甲ごが付けにくかった。食味にも優れており、酸味があり、こくを感じた」と講評した。

同J.A産のトマトは、ハウスで栽培し、秋冬期の主要作物になっている。

出品されたトマトの外観や食味などを確認する審査員

な愛知
ど県
フオトスポット



情報提供は支所またはJ.A中央会へ

中部支所

〒460-0003
名古屋市中区錦3-1-3
1-8 J.Aあいちビル西館3階

052(971)2020
FAX 052(971)2024
Eメール
chubu-h@agrine
ws.co.jp

東海地域の中央会

岐阜中央会
058(276)5631
静岡中央会
054(284)9544
愛知中央会
052(951)6944
三重中央会
059(229)9006